2025 年度事業報告

（期間：2025 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日まで）

法人の名称　　特定非営利活動法人　ダイヤモンド・フォー・ピース

1　事業の成果

2025 年度は、①啓発事業においては、国内外の対象者に向けて対面・オンラインによる啓発活動を実施した。また、メディアに取り上げられ記事が公開された。

②自立支援事業においては、リベリア国では 2022 年度より継続して実施している責任あるダイヤモンド採掘のリフレッシャーワークショップを実施した。養蜂活動ではウィズア村の優秀な普及員を講師として育成する目的も兼ね、バーマ村及びキャンプアルファ村で養蜂基礎研修を行った。また、リベリアで最も優れている組合の 1 つを視察し、今後の組合発展の示唆を得た。地域の衛生活動に関しては、ウィズア村でこれまでに建設した公共トイレ及び修繕した小中学校のトイレ 1 棟の使用状況及び維持管理のモニタリングを行い、正しい使用を促進する他、バーマ村公立中学高校のトイレを使用可能にするため、雨水取水設備を設置した。

シエラレオネ国への展開を見据え、事前調査を実施した。

④その他の事業では、講師としての講演やコンサルティング事業を実施した。

主な事業内容は以下のとおりである。

2　事業内容

（1）特定非営利活動に係る事業

①　啓発事業

ア　ウェブサイト、SNS、機関紙、メールマガジンによる啓発活動

・内容

Facebook、Instagram、Linkedin 等の SNS を用いて、活動の進捗報告やイベント開催等を定期的に周知した。

また、機関紙「The Journey」第 9 号（2025 年 8 月発行）を発行し、キャンプアルファ村における手掘り採掘労働者と農家コミュニティの正式組合資格の取得、インターン生のリベリアでの活動（アグロフォレストリと養蜂に関する教材開発モニタリング）、ウィズア村における埋め戻されたダイヤモンド鉱山跡地におけるファーマーズフィールドスクール（FFS）、また、法人会員、ボランティアを同機関紙にて紹介した。同機関紙は英語と日本語の併記で、日本・海外における広報啓発ツールとなっている。なお、機関紙は紙面の配布に加え当法人ウェブサイトからもダウンロードすることができる。

・日時　　2025 年 4 月～2026 年 3 月
・場所　　当法人事務所他
・従事者人員　　のべ 15 人
・受益対象者　　当法人のウェブサイト、Facebook ページ、Instagram アカウント、LinkdIn ページにアクセスする者およびメールマガジン購読者
のべ 87,947 人
・支出額　　150,000 円

オンラインの媒体	投稿数/配信数	リーチ数（訪問数）	備考・詳細等
日本語ウェブサイト	9	20,000	45,000 (PV)
英語ウェブサイト	2	4,000	8,000(PV)
SNS	投稿数	インプレッション数	フォロワー数
Facebook ページ	50	20,062	6,212

Instagram	41	34,800	1,189
Linkedin	26	3,325	594
日本語メールマガジン	8	4,773	のべ購読者数
英語メールマガジン	1	325	のべ購読者数
機関紙 「The Journey」	1	662	300 (紙面配布数) 362 (ダウンロード数)*
合計	138	87,947	--

*本報告書執筆時点までのダウンロード数

イ　講演・講義活動

・内容

2025 年度は、対面で講演を実施した。講演の内容は、対象者及び主催者の意向により、ダイヤモンドやサプライチェーン上の課題を取り上げた。

・日時　　2025 年 10 月
・場所　　対面・従事者人員　　のべ 4 名
・受益対象者　　宝飾業界関係者、一般宝飾顧客等イベント参加者　計 50 名
・支出額　　15,000 円

◉講演活動実績

No.	開催日	講演主催者/ イベント名	講演内容	講演者	参加人数
1	10 月 18 日	和光トークショー	DFP の理念やリベリアでの活動	村上千恵	50
				合計	50

ウ. イベントの開催

・内容

日本国内にて、中高生対象、TICAD 参加者であるアフリカ政府関係者、一般消費者対象のイベントを対面・オンラインにて開催した。

・日時　　2025 年 4 月～2026 年 1 月
・場所　　下表参照
・従業者人員　　8 人
・受益対象者　　ダイヤモンドに関する課題、サプライチェーンの課題、宝飾、鉱山、リベリアにおける活動、アフリカにおけるカカオ栽培・カカオ産業、チョコレートに興味のある人々　157 名
・支出額　　300,000 円

◉当法人主催イベント

No	開催日	イベント名	内容	場所	参加 人数	録画 視聴数*
1	12 月 27 日	中高生対象オンライ ンワークショップ	リベリアの紹介、 ダイヤモンドの課題、グ	オンライン	25 名	NA

			ループワーク			
2	8月22日	Discussion on Improving the ASM Sector (TICAD9 サイドイベント)	DFPの活動・将来計画の紹介、NGO Alliance for Responsible Miningの活動紹介及びディスカッション	対面	10名	NA
3	1月13日	ウェビナー「人と技術と未来を育むカカオ発酵研修実施報告会」開催報告	リベリアで実施したカカオ発酵研修の内容・成果を共有・報告	オンライン	34名	88
小計					69名	88
合計					157名	

*録画視聴数は本報告書執筆時点での数

エ. イベント出展

・内容

日本国内のイベントに出展し、ダイヤモンドサプライチェーンにおける問題や当会の活動を啓発した。

・日時　2025年8月～2025年9月
・場所　下表参照
・従業者人員　10人
・受益対象者　イベント出席者　主に宝飾業界関係者、サステナビリティに関心のある社会人・学生等　263人
・支出額　306,260円

◉外部イベントへの出展

No	開催日	イベント名	DFP出展内容	形態・場所	参加人数
1	8月20日～22日	TICAD9	ブース出展	対面（横浜）	134名
2	9月27日～28日	グローバルフェスタ	ブース出展	対面（東京）	129名
				合計	263名

オ 他媒体への掲載

・内容

2025年度も、インタビューや情報提供等により他媒体に掲載された。

・日時　2025年4月～2026年3月
・場所　下表参照
・従業者人員　2人
・受益対象者　世界で手掘りダイヤモンド採掘に従事する労働者およそ1,300万人　及び掲載された記事の読者推定数11万人
・支出額　15,000円

No	掲載日	発行社名	媒体名	内容	掲載場所	推定リーチ数*

1	4月中旬	MJSA（米国ジュエリー製造者&サプライヤ協会）	MJSA Journal	リベリアにおけるDFP の責任あるダイヤモンド採掘研修や養蜂活動	オンライン	6,500
2	8月中旬	MEDIAOBS（仏国）	DREAMS Magazine	法人会員MIOHARUTAKA及びDFP活動の紹介	月刊誌	35,000
3	9月上旬	リンクタイズ株式会社	Forbes Japan 課題ラボ	ダイヤモンドの課題とその解決策案	オンライン	20,000
4	3月上旬	全国社会保険労務士会連合会	月刊社労士	サプライチェーン上流の労働課題と、社労士に寄せられる期待	月刊誌	48,000
					合計	109,500

*推定リーチ数は、当会独自の算出方法による。

② 自立支援事業

ア　責任あるダイヤモンド探査・採掘の基礎

・内容

2025 年度 11 月、3組合のリーダー達 13 名（のべ 39 名）を対象に、責任あるダイヤモンド採掘の基礎を復習するリフレッシャーワークショップを開催した。この中でダイヤモンドのサプライチェーンや組合活動に必須の会計帳簿の付け方、ビジネスプランの考え方も含め指導した。帳簿については、他参加組合の帳簿に関する評価やコメントを行い、参加者が自ら課題や解決方法を考える形とした。本ワークショップは専門家を雇用せず、当会スタッフが講師となり行った。また、組合員の土地を利用し実践的な探査の練習も行った。

・日時　2025 年 4 月～2026 年 3 月
・場所　リベリア共和国バポル州ウィズア村、バーマ村、キャンプアルファ村
・従事人数　5 人
・受益対象者　ウィズア組合員、バーマ組合員、キャンプアルファ組合員のべ約 60 名
・支出額　1,620,000 円


組合の帳簿にコメントする参加者


探査練習の様子

イ　アグロフォレストリー研修・モニタリングの実施

・内容

2025 年 6 月から 2026 年 3 月にかけ、計 6 回のアグロフォレストリー研修をファーマーフィールドスクール(FFS)形式で開催した。本研修はウィズア村、バーマ村、キャンプアルファ村で各 2 回開催し、各組合の普及員候補者 2 名が他村で開催された研修にも参加し、組合間での学びや競争を促進した。1 回の研修の平均のべ参加者数は 69 人（1 日あたり平均 23 人）であった。また、研修受講者のうち 43 人が各自が所有する畑または組合の農場で、研修した事柄のうちいずれかの技術を実践していることを、畑・農場を訪問して確認した。

キャンプアルファ組合からの要請に基づき、これまで天日乾燥して販売していたカカオ豆に付加価値をつけるべく、発酵・乾燥方法の研修を 2025 年 11 月に開催した。ウィズア組合からも 2 名が参加し、合計のべ 66 人（1 日あたり平均 13.2 人）が研修に参加した。

リベリアの中で最も優れた組合の 1 つであるニンバ州カーンウィ組合の視察研修を 2026 年 3 月に開催し、8 名が参加した。組合の集金状況、帳簿・記録の他、組合リーダーによるそれまでの苦労・克服方法・事業拡大について話を伺い、農業活動を視察した。また、その近隣に所在するチョコレート工房、魚の養殖池、養蜂場を視察及び質疑応答等を行い、今後の組合活動への示唆を得た。参加者は帰村後、所属する組合で視察した内容や考察を他組合員に共有済である。

・日時　　2025 年 4 月～2026 年 3 月
・場所　　リベリア共和国バポル州ウィズア村、バーマ村、キャンプアルファ村
・従事者人員　　7 名
・受益対象者　　ウィズア採掘農業組合、バーマ組合、キャンプアルファ組合の組合員合計約 70 名
・支出額　　1,700,000 円


アグロフォレストリー研修の様子


カカオ豆発酵基礎研修の様子

ウ　養蜂普及員の育成及び養蜂技術基礎研修・フォローアップ活動の実施

ダイヤモンド採掘者の安定した収入源を確保するために 2020 年から養蜂活動を支援している。2025 年度はウィズア村の養蜂普及員 9 名のうち特に優秀な 2 名を育成するため、DFP リベリア人スタッフが監督の下、普及員が講師となる養蜂基礎研修をバーマ村で 2 回、キャンプアルファ村で 2 回開催し、のべ 94 名が参加した。バーマ村とキャンプアルファ村でも養蜂普及員を 6 名組合員の中から決め、養蜂活動の中心となっている。養蜂活動が進んでいるバーマ村では、普及員を対象に中級研修も開催した。

2026 年 3 月末時点で、設置されている巣箱は合計 253 箱（3 村の合計）、そのうちミツバチが棲み着いた巣箱数は、合計 49 箱である。巣箱を設置する養蜂場は合計 20 箇所になった。2026 年 1 月から 3 月にかけてバーマ村で計 3 ガロン（約 15kg）のハチミツを収穫した。

・日時　　2025 年 4 月～2026 年 3 月
・場所　　リベリア共和国バポル州ウィズア村、バーマ村
・従事者人員　　6 名
・受益対象者　　ウィズア採掘農業組合員、バーマ組合員、キャンプアルファ組合員合計約 60 名

・支出額　　2,000,000 円


キャンプアルファ村での養蜂基礎研修の様子



バーマ村での養蜂基礎研修の様子

エ　公共トイレや学校修繕トイレのモニタリング及び雨水取水設備設置

・内容

これまでウィズア村に設置した公共トイレ 2 箇所及び修繕した学校トイレの使用・維持管理状況のモニタリング及びコーチングを行った。

バーマ村公立中学高校から要請のあったトイレを使用可能にするための雨水取水設備設置を行った。バーマ村同校ではトイレ自体は外部からの支援により設置されていたが、水を使用できない状態であったためトイレを使わず、近隣の森で生徒や教員が排泄せざるをえない状況だった。この状態を改善するため、雨水取水設備 1 箇所を設置しトイレを使用可能にした。

・日時　　2025 年 4 月～2026 年 3 月
・場所　　リベリア共和国バポル州ウィズア村及びバーマ村
・従事者人員　　7 名
・受益対象者　　ウィズア村スリップウェイ集落公共トイレの受益者 147 名
ウィズア村のマンディンゴ集落公共トイレの受益者 210 名
ワリティ小中学校の生徒及び教員約 300 名及び近隣世帯の 23 名
バーマ村公立中学高校の生徒及び教員約 200 名
合計 880 名
・支出額　　1,000,000 円


雨水取水設備工事の様子


設置された雨水取水設備

オ　　環境教育研修の実施及び衛生促進委員会活動支援

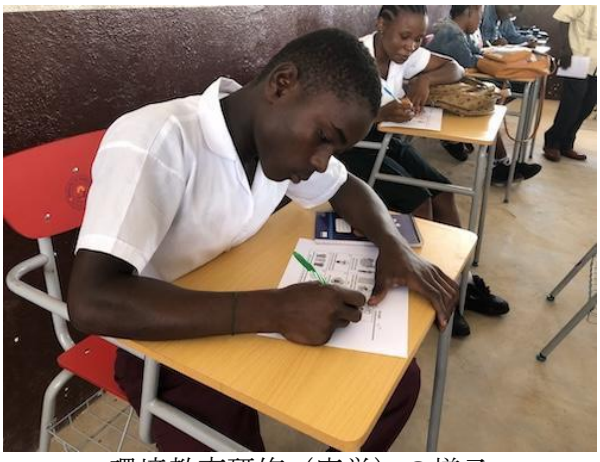
・内容

ゴミのポイ捨てや環境問題に対する啓発活動として、2022 年度よりウィズア村にあるワリティ小中学校において、環境教育研修を実施している。リベリアに公的なゴミ収集サービスはなく、ごみのポイ捨てやゴミ処理の問題はウィズア村に限らず全国的な問題である。

2025 度はこれまで使用していた講師用教材を改訂し、現地住民が知っておくべきマイクロプラスチック問題等をより詳細に加えた。ウィズア村小学校及びバーマ村中学高校において環境教育研修を合計 3 回実施し、合計 78 名の生徒が参加した。継続的に本研修を実施していくため、バーマ村中学高校の教員に講師研修を事前に実施し、彼らが研修講師を務めた。研修はこれまで同様座学と屋外活動の 2 部構成で、ゴミが人間や動物、環境に与える影響や地域をきれに保つことの重要性を学び、実際にゴミ拾いとゴミの分別方法を体験してもらうことで生徒のゴミ処理に関する理解が深まった。研修の効果を測定するために事前テストと事後テストを実施し比較し、理解度の到達度合いを確認した。

ウィズア村の有志が 2022 年に設立した衛生促進委員会（HPC）は、毎月第一土曜日午前中をクリーンキャンペーン（ゴミ拾い活動）の日とし、村長や村人の協力を得て 2025 年度には HPC が中心となり 2 回クリーンキャンペーンを実施した。当会はその側面支援を行った。

・日時　　2025 年 7 月～2026 年 3 月
・場所　　リベリア共和国バポル州ウィズア村及びバーマ村
・従事者人員　　6 名
・受益対象者　　小中高生 78 名、衛生促進委員会のメンバー3 名、教師 3 名
　　ウィズア村の中心部に住む村人　約 3,000 名
　　バーマ村の中心部に住む村人　約 500 名　　合計約 3,584 名
・支出額　　1,000,000 円


環境教育研修（座学）の様子


環境教育研修（屋外演習）の様子

カ　シエラレオネでの事前調査

・内容

リベリア国の隣国であるシエラレオネ国への展開を視野に、コノ県、ケネマ県の女性採掘組合 5 箇所を訪問し、現在の活動状況、今後の目標と現状のギャップを理解するため視察、対話、聞き取り調査を実施した。また、類似活動を実施している企業・団体を訪問し、活動内容の理解に務めた。

・日時　　2025 年 9 月~2026 年 3 月
・場所　　シエラレオネ国コノ県、ケネマ県、フリータウン
・従事者人員　　6 名
・受益対象者　　コノ県、ケネマ県の 5 女性採掘組合の組合員　合計約 200 名
・支出額　　1,800,000 円

	
ダイヤモンド採掘の様子	調査チームとの会合の様子

③緊急支援事業
2025 年度は実施しなかった。

④その他の事業
2025 年度は以下の事業を実施した。

- **教育事業**

2025 年度は実施しなかった。

- **コンサルティング事業**

評価案件をリベリアで実施する企業に対し、リベリア国内でコンサルティング業務を提供し調査を実施した。また、日本国内で日本政府からの補助金を得たい企業へのコンサルティング業務や、日本政府からの補助金獲得が決まった企業へのアドバイザリーを行った。

・日時　2025 年 4 月～2026 年 12 月
・場所　日本及びリベリア
・従事者人員　2 名
・受益対象者　評価対象であった日本政府の支援により設置された公共事業案件の受益者
約 50 万人
・支出額　437,208 円